理解を深め、意見交換
只見ユネスコエコパーク住民説明会

只見ユネスコエコパークについて、町民の方の理解を深めていただくことを目的に9月10日は只見、11日は朝日、12日には明和の各地区センターで住民説明会が開かれました。これは、只見ユネスコエコパークの登録申請に伴う方針と土地利用区分の設定案などについて、検討委員会の案がまとまり、8月20日に目黒町長へ提示されたことにより行われたものです。

説明会では、目黒町長が「只見の自然を保護・活用していくなかでエコパークへの登録は欠かせない。今後、登録申請に向け進んでいくなかで町民の皆さんにも理解を深めていただき、ご意見を伺うための機会としたい」とあいさつしました。その後、只見町がユネスコエコパークに登録された際のメリットやデメリットなどの説明があり、さらに、エコパーク事業は町民みんなで将来の只見町を考えていく取り組みのきっかけとしたいことの話もあり、参加者はエコパークについての理解を深めている様子でした。

▲明和地区センターでの説明会

叙　勲
須佐 信夫さんに旭日単光章

須佐信夫さん（蒲生）は、昭和43年4月に只見町議会議員に初当選され、昭和51年4月までと、昭和55年4月から昭和59年4月までの通算3期12年にわたり在職されました。

その間、経済委員会副委員長や同委員長を務められ、町の経済活動の発展に尽力、さらに町議会の中心的役割を担い、町政発展に努められました。このように地方自治の振興に多大な貢献をされたことから、旭日単光章を受章されました。

魅力ある・生徒の集まる只見高校に・・・
只見高等学校振興対策懇談会

只見高校の様子や支援体制などを理解してもらうことを目的に、高等学校への進学を控える中学3年生の保護者など関係者約70名が出席し、只見高等学校振興対策懇談会が、9月13日に朝日地区センターで開かれました。

はじめに振興対策会議会長の目黒町長より「皆さんからご意見をいただき今後の振興対策に生かしていきたい」とあいさつがあり、続いて只見高等学校長と同校同窓会長のあいさつがありました。

只見高校の卒業生からの発表では、平成23年度卒業の五十嵐花奈恵さんが「只見高校は自分を大きく成長させてくれた。やる気を出させてくれた。この高校を卒業でき誇りに思う」と話し、長谷部千晶さんは「只見高校は、やればできることを気づかせてくれた学校。小規模校ならではの指導が良かった」と二人とも高校時代を振り返り話しました。最後に、懇談が行われ、出席者は只見高校の現状を知ることができ、有意義な懇談会となりました。

▲卒業生の発表「五十嵐 花奈恵さん」

▲卒業生の発表「長谷部 千晶さん」

会津若松市内で職業体験

只見中学校 職場体験活動

只見中学校では、正しい職業観を身につけることや、働くことの意義・大切さを学ぶため、9月10日から12日までの三日間、会津若松市内で職場体験活動を行いました。

職場体験をした生徒は、2年生39名で国立磐梯青少年交流の家に宿泊しながら、市内の飲食店や大型販売店、幼稚園、保育園、福祉施設などの職場で様々な仕事を体験しました。

職場体験をした加藤正靖さんと長谷川夏美さんに感想を聞きましたので紹介します。

加藤　正靖（まさのぶ）さん
（リオンドールアピオ店）

職場体験で感じたことは、お客様が買い物しやすいよう工夫していることや、笑顔で明るくあいさつをすることをとても大切にしていて、お客様を第一に考えることから仕事が始まる印象を受けました。接客業とは、相手を思いやる気持ちが仕事をする上で、たいへん大切だということです。これからの学校生活でも、職場体験で学んだ「相手を思いやる心」を生かして生活したいです。

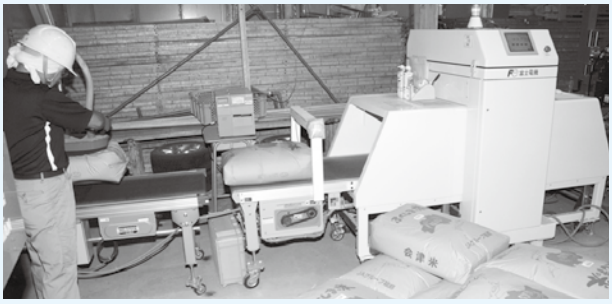
長谷川　夏美さん
（レストランポタジェ・西沢書店）

私は、2ヵ所の職場に行ってきました。初日はレストランポタジェ、その後の二日間は西沢書店で職場体験をしました。ポタジェでは、常にお客様のことを思い、安全面やメニューにとても気遣いが見られました。西沢書店では、お客様に喜んで本を買ってもらえるよう工夫をしていました。いずれも、お客様を大切に思う気持ちや気遣いを第一にしていることを学ぶことができました。

只見産米 放射性物質全袋検査実施中

9月24日から米の全袋検査が開始されました。
安全安心な只見産米を実証するための検査です。
町民皆様のご協力をお願いします。

○検査時間　午前9時から行なっています（正午～午後1時を除く）
○検査場所　朝日建設（株）事務所わきの
旧シイタケ栽培工場（小川橋付近）
○予約番号　☎080－1662－8886
＊検査は必ず予約をして受けてください。



【問い合わせ】産業振興課農林班 ☎0241－82－5230

心から笑って元気に長生き！

平成24年度只見町敬老会

平成24年度只見町敬老会が只見・朝日・明和の各地区センターで、9月9日に開かれ、満75歳以上の方々が、只見地区で162名、朝日地区で207名、明和地区で196名出席されました。祝宴では、婦人会の皆さんによる華麗な舞踊なども披露され、会場内は大きな拍手と歓声につつまれました。温かい心がこもったすばらしい敬老会となり、出席された方々は満足そうな様子でした。

▲只見地区の敬老会

只見町ブナセンター

ブナ林の水辺に生きる

ブナセンター講座

―只見の川魚たち―

9月8日に「ただみ・ブナと川のミュージアム」で、南相馬市博物館学芸員の稲葉修さんを講師に迎え、ブナセンター講座が開かれ、約30名が参加しました。

稲葉さんは、最初に「魚の定義」について説明し、加工食品や各地に残る伝説など「魚は昔から人々の生活の中に生きてきた」ということを話されました。それを踏まえて「只見町の川にはどんな魚がいるの?」ということについて、わかりやすく解説されました。

▽只見町の川魚の特徴は…

福島県内には110種類、会津地方では47種類、そして只見町には28種類の魚が生息しています。そのうち在来種はイワナをはじめシマドジョウやアカザ、エゾウグイなど、わずか10種類しかいません。その理由として、雪解け水や沢からの流入により水温が低く保たれ「コイ科の魚が少ないため」ということでした。

▽町の魚「イワナ」の現状は…

只見町の川には、在来種のニッコウイワナと放流魚のエゾイワナというイワナが生息しており、現在町内で見られるイワナは、ほとんどが放流魚のエゾイワナだということです。

稲葉さんは、在来種のイワナを残すメリットとして「在来種は、その土地で長い間生きてきた歴史があり、地域の財産として残すことに意味がある。只見の川に住み適応したニッコウイワナは、大水が出ても流されずに生き残る確率が高く、その土地の環境に強い」ということを説明、そして「イワナを町の魚にしているからこそ、もともと只見に生息していた美しいニッコウイワナを見つけ保護していく必要があるでしょう」と述べられ「イワナを使った町おこしをしてはどうか」という提案もされました。

只見の川魚について説明する稲葉修さん

▽最後に…

今回の講座では、地元にどんな魚が生息しているのか、また在来種である魚たちを保護することは文化的・学術的にも大変意味のあることだということ、さらに、田子倉湖で問題になっているブラックバスなどの外来魚についても考えることができた有意義な講座となりました。

自然観察会　ブナ林に住む魚を探る

9月9日に行われたブナセンター主催の自然観察会「ブナ林に住む魚を探る」では、布沢地区の奥にある田沢川や木地師集落跡周辺で、参加者約20名の皆さんが木地師集落跡の見学とブナ林を流れる川に住む生き物たちを観察しました。

はじめに鈴木和次郎ブナセンター館長から木地師集落跡についての説明があり、参加者は当時の様子を想像しながら集落跡を見学しました。その後、近くを流れる田沢川で水生生物の観察会が行われました。

今回の観察地が禁漁区に指定されていたこともあり、水生昆虫や水辺に生きる両生類の観察がメインとなりました。参加者は川に入り、石の下や川に流れ込む細い支流を探ったりしながら、思い思いに生き物を見つけ、みんなで集まり、確認できた生き物の生態について学びました。

参加者からは「今回の観察会は、様々な分野の自然に関する知識を持った人が集まったので、とても面白い観察会になった」と感想も聞かれ、充実した観察会となりました。